

標 題 : Diets of Middle-Aged Farmers in Japan  
日本における中年農民の食事

---

著 者 : Ancel Keys (米国 ミネソタ大学 公衆衛生学部 生理学的衛生学科)  
and K. Kimura (日本 久留米大学 心臓血管研究所)

---

掲 載 誌 : Am. J. Clin. Nutr. 23 (2): 212-223 (1970)

---

(はじめに)

日本、ハワイ、およびロサンゼルスにおける日本人男性の1956年の調査は、平均コレステロール値および食事中的脂肪の比率に地域間の大きな相違を示し、その対比が住民の冠状動脈性心疾患の頻度の違いと関連するとみられた(1)。

食事調査方法〔栄養士による面接と食事の思いだして構成され、共通の手続きを用いる〕は3地域における習慣的な食事の大きな相違を明らかにするのに適切であったが、思いだしの信頼性および異なる文化で生産と調理された品目に対する食品表の詳細な適用性についての通常の疑問にさらされた。

日本人男性の1956年調査は、対照的な住民における食事、血清脂質と冠状動脈性心疾患の発症率との間の関連に関するさらに系統的な長期間研究を促進するものであった。

その結果、1958年に開始した冠状動脈性心疾患の疫学に関する共同国際研究(2)の手続きには、複数住民における男性サンプルからの食事データの取得が含まれた。

その計画における食事の発見は、フィンランド(3)、イタリア(4)、ユーゴスラビア(5)、オランダ(6)、およびギリシャのサンプルから報告され、これら研究の方法が批判的に検討されている(8)。

本論文で、日本の農民における平行研究の結果を報告する。

---